

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400265		
法人名	社会福祉法人 ふるさと会		
事業所名	グループホーム 福寿の家		
所在地	高知県吾川郡いの町中追2598番地1		
自己評価作成日	平成25年4月28日	評価結果 市町村受理日	平成25年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域唯一の老人施設として、地域に支えられ、地域を支える施設を目指しています。高齢化の進む過疎地域の中で、地域住民と定期的な体操や季節に応じた住民参加の祭りを実施して日頃から交流を深めています。また、民生児童委員や区長の方々と運営推進会議等を通じて、施設の運営も含めて、これからの地域活性化のための話し合いを常にしています。

施設の運営としては、利用者みなさんが、豊富な自然の中で、さまざまな活動や家事等の共同作業を通じていつも楽しくいきいきとした生活が送れることを目標としています。また、施設内にこもることなく、できるだけ外に出て交流を深め、生きがいを持って元気に過ごしていただけるよう心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgvosyoCd=3972400265-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年6月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は四季折々の景観に恵まれた自然環境のなかにあり、利用者はゆったりした毎日を過ごしている。毎年春には新緑祭、秋には紅葉祭を地元小学校で開催して多くの地域住民の参加があり、公民館で行われる地元主催の体操にも参加して地域住民との交流を図っている。週1回移動販売車が事業所に来て、利用者は買い物を楽しむことができる。職員は利用者それぞれの個性を把握し、職員会や随時のカンファレンスにおいて活発な議論を交わし、利用者本位のサービスの提供に努めている。遠隔地であり外出支援が課題としてあるが、その解消に向けての建設的な意見も出され職員の前向きな姿勢がサービスの向上に繋がっている。管理者と職員のコミュニケーションも良く取れ、管理者は日常的に職員の思いや意向を汲み取り、和やかな雰囲気の中で職員は生き生きと業務に取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、基本目標をホーム内に掲示し、全職員が常に理念を念頭においたケアを実践するよう努力している。	利用者の基本的人権を尊重した独自の理念を掲げ、事業所内に掲示するとともに各自の名札の裏にも記載し、利用者の個性を尊重したケアを心がけ、介護計画にも反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節に応じたホーム内での祭りなどの行事に多数の地域住民が参加し、利用者との交流を深めている。また、公民館で一緒に行う体操や、地域一斉清掃などにも参加し、共に汗を流している。	春には新緑祭、秋には紅葉祭を多数の地域住民の参加のもとに地元小学校で開催している。公民館では民生委員をはじめ地域住民と共に体操に参加したり、週に1回移動販売車が事業所に来て、地域住民と交流しながら買い物をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が地域に出てゆくことや、ホームの行事等の機会を通じて認知症の理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や利用者の心身状態の報告を詳細に行い、委員だけでなく、利用者や家族も参加した会議の中で、さまざまな意見を出してもらい、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は事業所の活動報告、利用者の状況などの報告により、出席委員との意見交換が行われている。運営推進会議への家族の参加は高齢や交通手段等の関係から出席に限られ、利用者の出席も固定化される傾向がある。	運営推進会議での議題の検討(例:自己評価結果の改善策、防災対策など)を行い、議事録については出席できない家族のために、全家族への配付を検討するなど、運営推進会議の更なる充実を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議担当者や包括支援センターと常に連絡を取り、協力関係を保っている。また、町主催の事例検討会等の勉強会にも積極的に参加するよう努力している。	町が開催するグループホーム主任会には必ず出席し、対象事例の検討や意見交換を行っている。また、事業所の運営について、地域包括支援センターに向いて相談したり、電話連絡などにより日頃から協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修会等に参加して身体拘束をしないケアについての勉強をすると共に、職員間で話し合いをしている。	法人の本部で行われる月1回の身体拘束委員会に担当者が出席し、内容について口答及び資料配付で全職員に周知徹底している。特に職員の言葉による拘束に気をつけている。転倒等リスクの高い利用者の家族には身体拘束をしないケアの方針を説明している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会等に参加して、理解を深めると共に、軽微な異常でも見過ごすことのないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、研修会に参加して学習すると共に実際に必要な場合には、行政の担当者と連絡を取り、アドバイスを受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な余裕を持って内容の理解をしてもらい、納得の行くまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を置いて、いつでも意見や要望を出してもらえるようにしていると共に、折にふれて、利用者や家族から意見や要望があれば聞けるよう便り等で呼びかけている。	2ヶ月に1回事業所だよりを発行する際に家族の意見、要望を聞けるように通信内容を工夫している。また、交流会や面会時に利用者や家族から直接話しを聞くようにしている。意見箱を設置していたが活用されず現在は設置していない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を通じて職員の意見や提案を聞き、運営に反映させると共にいつでも相談等に応じている。	職員とは日常的にコミュニケーションが取れており、率直な意見や要望が出されている。外出願望の強い利用者の歩行距離の検討や、見守るために職員が通信機器で連絡を取り合うなどの提案を取り入れた事例があり、利用者の安全に配慮したサービス提供に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の完全消化や、休憩時間の確保等職員の働きやすい環境を作るため努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会あるごとに内外の研修会に参加させ、資質の向上を目指すとともに、各種資格の取得にも努力するよう啓蒙している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の勉強会に参加しサービスの向上に努めるとともに、他施設と交流を深め、お互いの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い、人生歴、生活環境やふるさとの思い出等を十分聞き、今後の関係づくりに心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話し合う時間を十分にとり、家族の思いや要望をしっかりと聞いて、よい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から必要としている事柄をしっかりと聞き、必要な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員という関係で終わらせず、共同生活をするということを常に念頭において、様々な作業を一緒に行い、共に生活を築き上げてゆく努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	さまざまな機会を通じて家族の参加できる場を設け、共に本人を支えてゆく関係を作るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問や思い出の場所に出かける機会を多く作り、楽しめるよう支援をしている。	ドライブを兼ねて自宅に帰ったり、自宅近辺の風景を眺めたり、行きつけの喫茶店、馴染みの店で知人と出会ったりして、思い出の場所や人とのつながりを維持する支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く楽しい関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所して方でも、できるだけ関係を保ち、支援するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の思いや意向を把握するようにしている。	日常の会話の中で思いや意向の把握に努めている。特に入浴時の対話を大事にしている。食事に関する希望が多く、それに沿ったサービス提供に努めている。また、静かに過ごしたい利用者のために歌などのレクリエーションにも配慮し、静かな場所をつくる工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの生活歴をしっかりと把握すると共に入所後も様々な事柄の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケア、職員間の情報の共有化等で本人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	機会あるごとに課題とケアについて検討し、本人に最も適切な介護計画を作成するよう努めている。	利用者それぞれの担当者から情報収集やカンファレンスを行い、ケアマネジャーが介護計画を立案している。サービス担当者会議には利用者や家族の出席は得られにくく、家族には電話や事業所だよりを通して状況報告をしている。状況変化に応じてその都度見直しを行っている。	介護計画の作成にあたっては、家族の意向や職員の気づきなどに基づき、職員全員が意見交換を行い情報を共有しながら作成されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきの情報を職員間で共有し現場で活かすと共に、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が必要とするニーズを把握し、できるだけサービスに反映するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流、行事、祭り等を通じて日々楽しく豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や歯科医師の往診で健康維持の環境を作るとともに、著変時には職員が対応して病院受診等を実施している。	協力医療機関をかかりつけ医として月2回往診があり、状態を介護記録や往診ノートに記載して情報を共有している。また、家族の希望により訪問看護師が来所し、常に医師と連絡が取れる体制にしている。専門医に関しては家族や職員が付き添って受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護職と連携して健康維持に努めるとともに、時に応じて適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常日頃協力病院との関係づくりをしており、入院した際にはしっかりとした対応をもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に方針について説明し、十分な理解が得られるようにしている。また、立地条件の困難さ(遠隔地)についても納得して頂き、家族の協力が必要なこととホームでの支援の限界についての理解もお願いしている。	立地条件の困難さ(遠隔地)から支援に限界があり、原則的に看取りはしていない。その点を入居時に家族に説明を行い了解を得ている。ただ、家族の希望により訪問看護師が来所し、状態変化時には医療機関に搬送できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等に参加すると共に、関係機関に依頼して救急救命訓練の出張指導等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風等の風水害については、事前に災害対策をたて、職員の配置も見直すようにしている。防火避難訓練を消防隊員の指導のもとに定期的実施するとともに、地域の住民に協力をお願いしている。	消防計画に基づき、年2回防火訓練を行っている。人家から離れた立地条件のため地域住民の協力にも限界があり、自主防災の必要性が高い。停電対策として発電機を設置し、備蓄については水以外の物品の充実を図るべく検討中である。	立地条件から応援を得るまでに時間を要するため、運営推進会議や職員会を通して、各種の災害への対応方法、協力体制などを検討し防災対策を強化していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その人らしい生活が維持できるように配慮するとともに、機会ある毎に職員間で利用者の尊厳について話し合っている。	理念に掲げている「人としての尊厳を重んじる」ため、職員が居室に入室する際には許可を得て入室することや、入浴時には脱衣所に施錠したり、トイレ誘導時には身振りや静かな声かけで伝えるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、本人の希望することが表明でき、決定できるよう常に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を大切に、毎日が楽しく過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を第一として、服装や身だしなみに気を配り、本人にあったおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事をできるだけ提供するようにし、食事の準備や配膳、下膳、食器洗い等を、できるだけ利用者が一緒にするように声掛けし、実行している。	献立・調理は職員が交代で行っている。利用者から食事の好みを聞き取り、意思疎通の困難な利用者に対しては摂取量や残り物から判断して食事形態や調理の工夫をしている。利用者はテーブルの上でできる簡単な作業をして食事の準備を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の心身状態を適切に把握し、十分な食事や水分量の摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全員の口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの習慣に応じて、声掛けや時間誘導等で排泄の失敗がないように援助するとともに、夜間の巡視時にも必要なトイレ誘導を実施している。	利用者に応じてトイレへの時間的誘導や、尿取りパットの利用により、個別に排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の大切さを理解して、機会ある毎に水分を取るようにし、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々人の希望する曜日や時間帯をできるだけ尊重し、楽しんで入浴できるよう支援をしている。	利用者の希望に応じ、基本的に2日に1度の入浴を行っている。入浴は利用者の思い・意向を聞くことができる最良の機会と捉え、入浴を楽しみ、会話がはずむように工夫している。入浴拒否のある利用者には、入浴したくなるような言葉かけを工夫して誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に心身の状態を把握し、十分な睡眠や休息がとれるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確実に服薬の情報を把握し、申し送りや職員会で再確認した上で、症状の変化も見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの思いをしっかりと受け止め、日々を生きがいをもって楽しく過ごせるよう援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できるだけ多くの利用者が、希望する場所に家族や地域の人々と一緒にでかけられるよう支援している。	利用者は主として施設周辺の散歩に出かけている。利用者の外出の意向に十分には応えられていない状況もあり、電話や事業所だよりを通して家族にも協力依頼をしている。	日常的な外出支援については遠隔地でもあり困難も伴うが、外出支援の状況を運営推進会議の出席者や家族などに知ってもらい、協力を得られるような取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際には、本人の希望する買い物が楽しみながらできるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	声掛けや希望することで、家族等に電話を掛けたり、手紙が出せるよう支援している。また、折に触れて、家族にも連絡をくれるよう依頼している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激がなく、気持ちよく過ごせるよう利用者の意向を聞くと共に、室温や湿度に配慮して快適に過ごせるよう工夫している。	共用空間の中央にある厨房から調理の音や匂いが漂い、家庭的な雰囲気を出している。温湿度管理を行い、特に除湿に気をつけている。段差のある場所にはスロープを設け、センサーによる照明も設置して、危険防止対策が取られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ利用者同士が仲良く交流でき、楽しく過ごせるよう配置を考え、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	さまざまなつかしい、気に入った写真を飾ると共に、馴染みの家具等も持参してもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には利用者が使い慣れた家具や、縫いぐるみ・写真などの馴染みの物が持ち込まれ、住み慣れた自室の雰囲気をつくっている。掃除は本人に任せ、補完的に職員が行い清潔を保つようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には入口に大きな表札を掲示している。また、トイレや浴室も利用者に場所が目で見えるように工夫し利用者が迷わず安全に過ごせるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、基本目標をホーム内に掲示し、全職員が常に理念を念頭においたケアを実践するよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節に応じたホーム内での祭りなどの行事に多数の地域住民が参加し、利用者との交流を深めている。また、公民館で一緒に行う体操や、地域一斉清掃などにも参加し、共に汗を流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が地域に出てゆくことや、ホームの行事等の機会を通じて認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営状況や利用者の心身状態の報告を詳細に行い、委員だけでなく、利用者や家族も参加した会議の中で、さまざまな意見を出してもらい、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議担当者や包括支援センターと常に連絡を取り、協力関係を保っている。また、町主催の事例検討会等の勉強会にも積極的に参加するよう努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修会等に参加して身体拘束をしないケアについての勉強をすると共に、職員間で話し合いをしている。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止についての勉強会等に参加して、理解を深めると共に、軽微な異常でも見過ごすことのないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会、研修会に参加して学習すると共に実際に必要な場合には、行政の担当者と連絡を取り、アドバイスを受けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な余裕を持って内容の理解をしてもらい、納得の行くまで説明をしている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム内に意見箱を置いて、いつでも意見や要望を出してもらえようようにしていると共に、折にふれて、利用者や家族から意見や要望があれば聞けるよう便り等で呼びかけている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会を通じて職員の意見や提案を聞き、運営に反映させると共にいつでも相談等に応じている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>有給休暇の完全消化や、休憩時間の確保等職員の働きやすい環境を作るため努力している。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>機会あるごとに内外の研修会に参加させ、資質の向上を目指すとともに、各種資格の取得にも努力するよう啓蒙している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の勉強会に参加しサービスの向上に努めるとともに、他施設と交流を深め、お互いの質の向上に努めている。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の思い、人生歴、生活環境やふるさとの思い出等を十分聞き、今後の関係づくりに心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族と話し合う時間を十分にとり、家族の思いや要望をしっかり聞いて、よい関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族から必要としている事柄をしっかりと聞き、必要な対応をしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者、職員という関係で終わらせず、共同生活をするということを常に念頭において、様々な作業を一緒に行い、共に生活を築き上げてゆく努力をしている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>さまざまな機会を通じて家族の参加できる場を設け、共に本人を支えてゆく関係を作るように努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ふるさと訪問や思い出の場所に出かける機会を多く作り、楽しめるよう支援をしている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲良く楽しい関係が築けるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所して方でも、できるだけ関係を保ち、支援するよう努めている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>常に本人の思いや意向を把握するようにしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所までの生活歴をしっかりと把握すると共に入所後も様々な事柄の把握に努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々のケア、職員間の情報の共有化等で本人の現状の把握に努めている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>機会あるごとに課題とケアについて検討し、本人に最も適切な介護計画を作成するよう努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や気づきの情報を職員間で共有し現場で活かすと共に、介護計画に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者が必要とするニーズを把握し、できるだけサービスに反映するようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域との交流、行事、祭り等を通じて日々楽しく豊かな生活が送れるよう支援している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医や歯科医師の往診で健康維持の環境を作るとともに、著変時には職員が対応して病院受診等を実施している。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院の看護職と連携して健康維持に努めるとともに、時に応じて適切な指示をもらっている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>常日頃協力病院との関係づくりをしており、入院した際にはしっかりと対応をもらっている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前に方針について説明し、十分な理解が得られるようにしている。また、立地条件の困難さ(遠隔地)についても納得して頂き、家族の協力が必要なこととホームでの支援の限界についての理解もお願いしている。</p>			
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修会等に参加すると共に、関係機関に依頼して救急救命訓練の出張指導等を行っている。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>台風等の風水害については、事前に災害対策をたて、職員の配置も見直すようになっている。防火避難訓練を消防隊員の指導のもとに定期的実施するとともに、地域の住民に協力をお願いしている。</p>			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人格を尊重し、その人らしい生活が維持できるように配慮するとともに、機会ある毎に職員間で利用者の尊厳について話し合っている。</p>			

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の意思を尊重し、本人の希望することが表明でき、決定できるよう常に働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の希望を大切に、毎日が楽しく過ごせるよう配慮している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>清潔を第一として、服装や身だしなみに気を配り、本人にあったおしゃれができるように支援している。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好みの食事をできるだけ提供するようにし、食事の準備や配膳、下膳、食器洗い等を、できるだけ利用者が一緒にするように声掛けし、実行している。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の心身状態を適切に把握し、十分な食事や水分量の摂取ができるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後は全員の口腔ケアを実施している。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>利用者それぞれの習慣に応じて、声掛けや時間誘導等で排泄の失敗がないように援助するとともに、夜間の巡視時にも必要なトイレ誘導を実施している。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取の大切さを理解して、機会ある毎に水分を取るようにし、便秘の予防に努めている。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>個々人の希望する曜日や時間帯をできるだけ尊重し、楽しんで入浴できるよう支援をしている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>常に心身の状態を把握し、十分な睡眠や休息がとれるよう援助している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員が確実に服薬の情報を把握し、申し送りや職員会で再確認した上で、症状の変化も見逃さないように努めている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者それぞれの思いをしっかりと受け止め、日々を生きがいをもって楽しく過ごせるよう援助している。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>できるだけ多くの利用者が、希望する場所に家族や地域の人々と一緒にでかけられるよう支援している。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出した際には、本人の希望する買い物が楽しみながらできるよう援助している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>声掛けや希望することで、家族等に電話を掛けたり、手紙が出せるよう支援している。また、折に触れて、家族にも連絡をくれるよう依頼している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な刺激がなく、気持ちよく過ごせるよう利用者の意向を聞くと共に、室温や湿度に配慮して快適に過ごせるよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>できるだけ利用者同士が仲良く交流でき、楽しく過ごせるよう配置を考え、支援している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>さまざまななつかしい、気に入った写真を飾ると共に、馴染みの家具等も持参してもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室には入口に大きな表札を掲示している。また、トイレや浴室も利用者に場所が一目でわかるように工夫し利用者が迷わず安全に過ごせるように工夫している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				